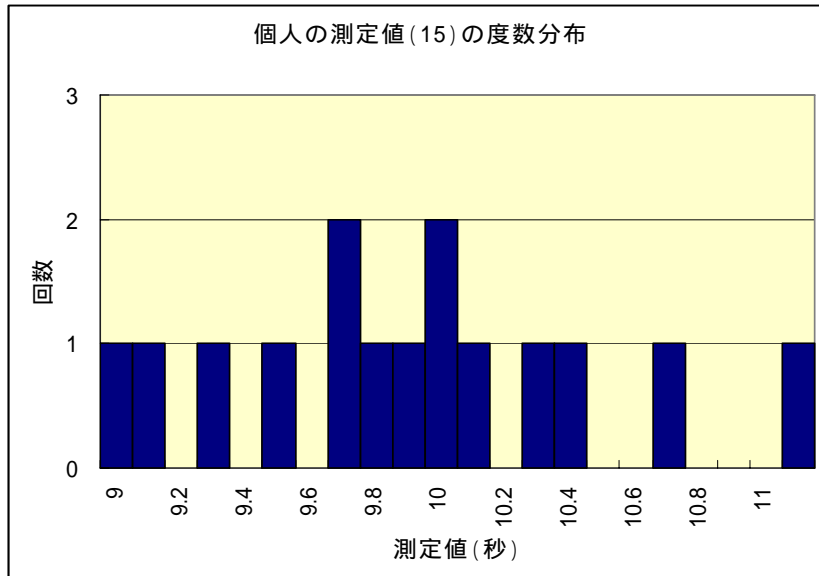


## 10秒はどれくらい？ 個人データ（15回）

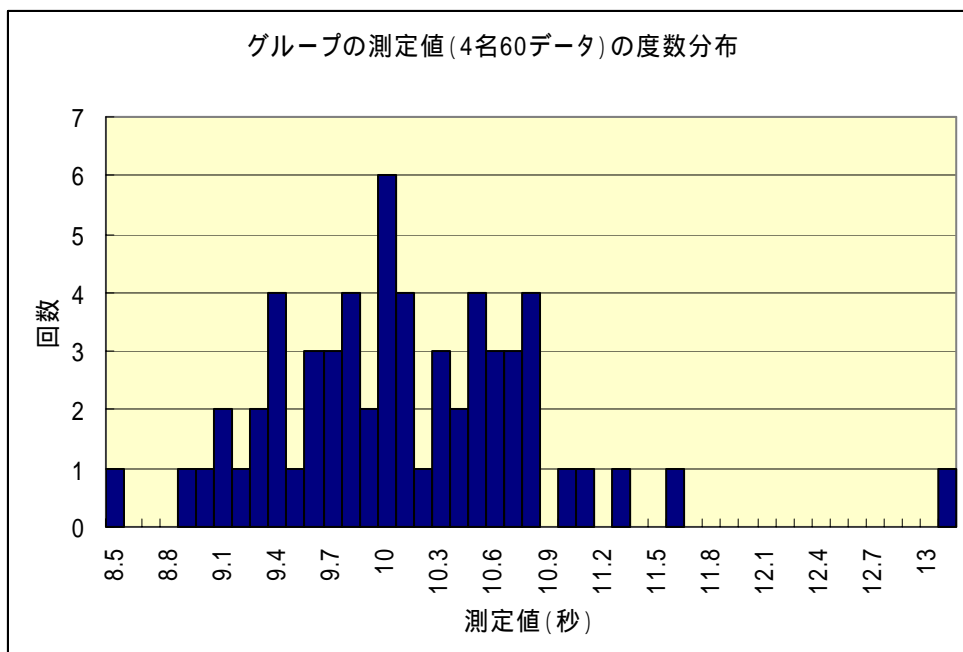
（個人データ 例1）



最小値 9.0秒 最大値 11.1秒 平均 9.9秒 標準偏差 0.57

## 10秒はどれくらい？ グループデータ（4人60回）

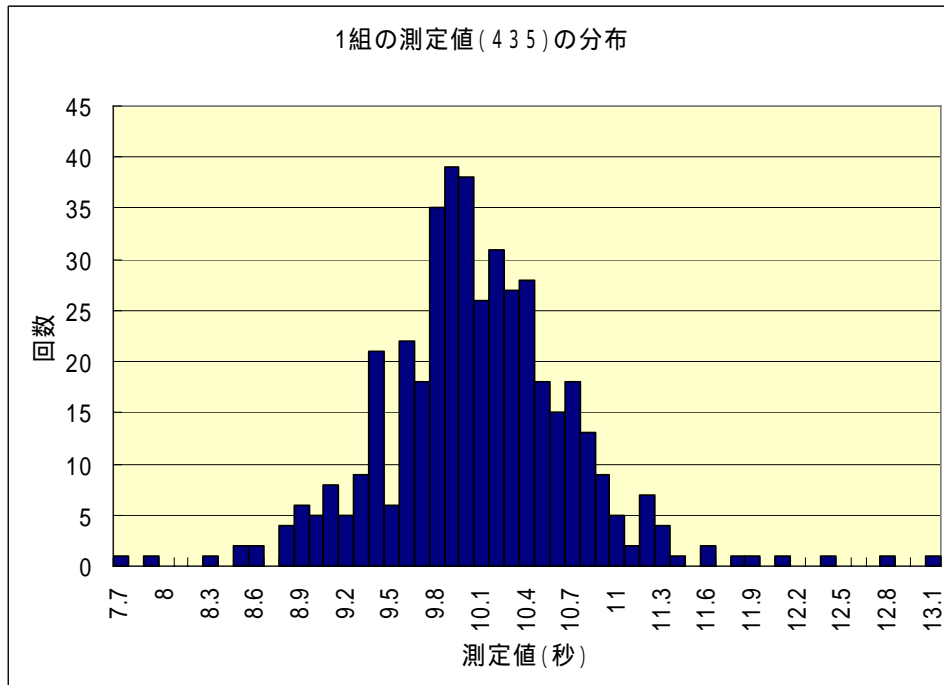
（グループデータ 例2）



最小値 8.8秒 最大値 12.4秒 平均 10.3秒 標準偏差 0.57

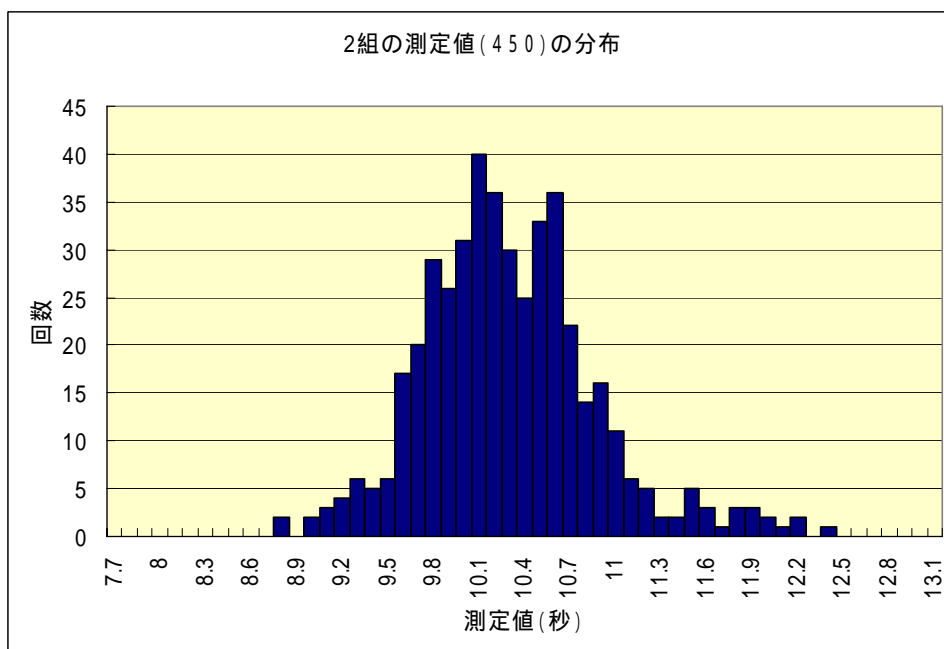
## 10秒はどれくらい？ クラスデータ（435・450回）

（クラスデータ 例3）



最小値 7.7秒    最大値 13.1秒    平均 10.1秒    標準偏差 0.64

（クラスデータ 例4）

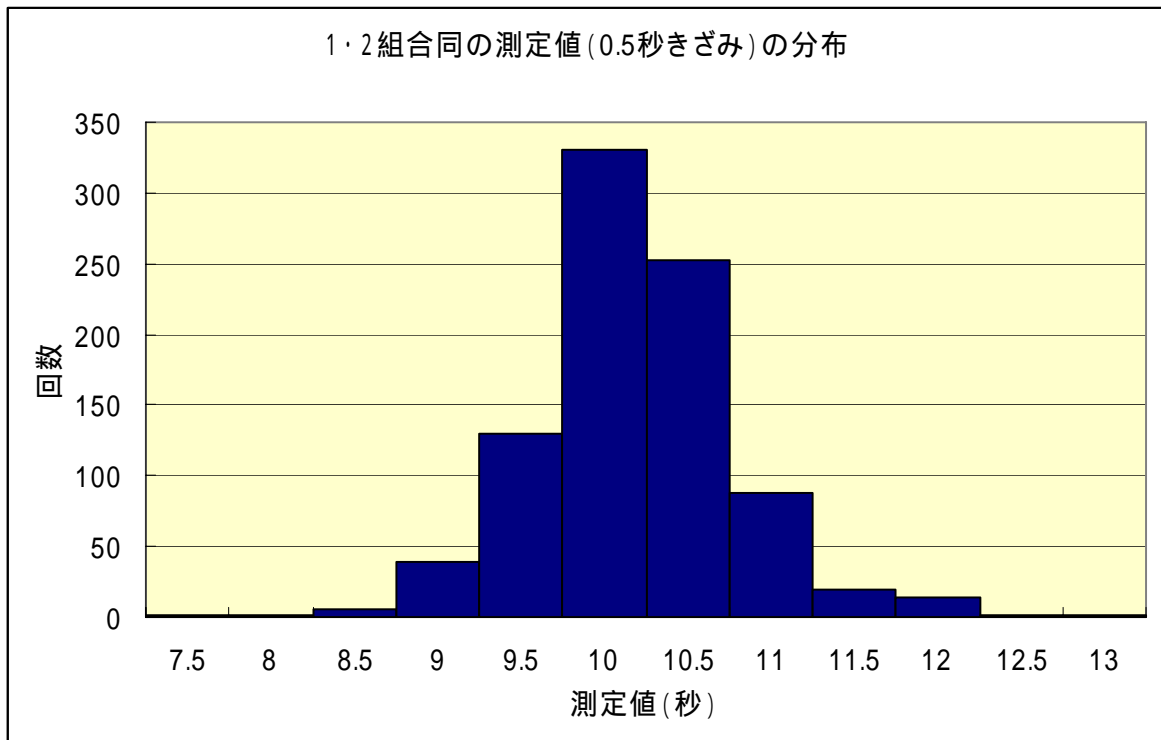
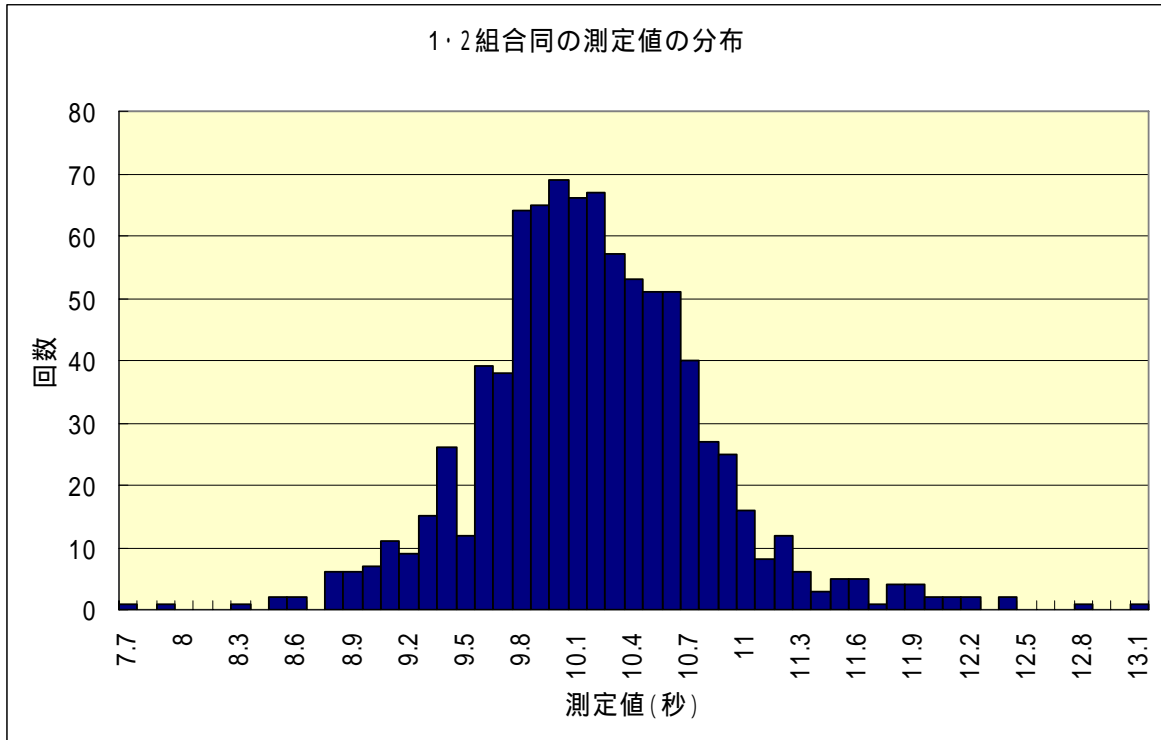


最小値 8.8秒    最大値 12.4秒    平均 10.3秒    標準偏差 0.57

# 10秒はどれくらい？ 学年データ（885回）

（学年データ 例5）

最小値 7.7秒    最大値 13.1秒    平均 10.2秒    標準偏差 0.62



## 10秒はどれくらい？ バラツキの推移（3×5回）

情報Bのクラス（2クラス計59名）では、感覚の10秒をストップウォッチで測定した。一人あたり、5回連続の測定を3ラウンド（合計15回）行った。

テープカットの事例とは異なり、毎回の測定値を確認するため、繰り返すにつれて、正確な時間により近くなっていくことが予想される。このことから、発展的なデータ分析の可能性が高いものになる。

生徒にどのようなことを調べたいかと発問したところ、

ラウンド毎のバラツキに、減少する傾向があるかどうか調べたい。

例えば2連続で10秒0が出るようになるには、何回くらい測ればよいか調べたい。のような意見が出た。

今回の授業では、それ以上の内容に踏み込まなかった。次回の実践の準備として、について調べるため、得られたデータから次のグラフを作成してみた。

なお、ラウンド毎の標準偏差は、順に、0.67、0.58、0.58であった。

（試行：学年データより 例6）

第1回目から第15回目まで、毎回59名の測定値の標準偏差の推移、

および、第1ラウンド毎の5回×59名の測定値の標準偏差の推移を表したものを。

